

構造設計コミュニティーズへの期待

今、我が国ではオリンピックも控えて、建築関係者は大変に忙しい。実際に大きな仕事の流れはなかなか末端の設計者がどうできるものでもないが、こと建築の構造安全性となると、実際にその構造設計を担当した人間が一番わかっているわけで、その意味から、社会として考えなくてはいけない問題がある。建築基準法の法適合性と後は市場原理でコストや質が決まっていることによる弊害、すなわち本来の必要な安全性が確保されているか、既存建築の耐震性は十分かは、社会のかかえる大きな問題である。構造設計者は専門家とはいえ、知識も経験もどうしても限界がある。同時に建築や社会に専門家がもっとかかわらなくてはいけない。コミュニティー・アーキテクトが求められると同じ意味でコミュニティー・エンジニアも求められている。そんな状況のもとで、情報をリアルタイムで共有し、災害時にもすぐに身動きできる構造設計者のネットワークが生まれた。これからも自然災害はどこかでいつ起きるかわからないという日本の社会にあって、少しでも社会のことへも気持ちを向けて、それを具体的な形にした。その心意気がすばらしい。建築基本法の制定をめざし活動している仲間から、このような実践が生まれたことを喜ぶとともに、大いに応援したいものである。

2019年5月

神田順（東京大学名誉教授、建築基本法制定準備会会長）